

(別添2)

自己評価及び外部評価結果
作成日

令和 3年 9月 14日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799500133		
法人名	株式会社童子		
事業所名	グループホーム白馬		
サービス種類	(介護予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府阪南市箱の浦457-1		
自己評価作成日	令和3年9月14日	評価結果市町村受理日	令和 4年 1月 4日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エイジコンサーン・ジャパン
所在地	大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟9階
訪問調査日	令和3年11月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

慢性疾患の生活管理や医療ケアを要する高齢者は多い 自分で症状を訴えることのできない認知症高齢者にとって、医療ケアのニーズは高い 当ホームは有床診療所が同一敷地内にあり、平素から診療所の医師・看護師との連携に努めている 急な発熱などの症状に対して、医師の指示を受けての点滴や浣腸、導尿などの医療行為を看護師がホームで行ったり、人工透析を要する認知症高齢者も隣の診療所で透析を受け、介護は当ホームで行っている 通院や入院などに伴う家族や本人の負担が少なくなっている

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

入居者の高齢化が進み、個別支援の割合が高くなっている中、経験豊富な職員が多数在籍し、敷地内にある関連施設クリニックとの連携で入居者の生活と健康を支えている。平屋建て本ホームは、玄関を挟み左右に分かれて2ユニットが運営され、「担当制」を用いながら、家庭的な雰囲気の中、職員全員で入居者全員を見守っている。
食事は職員が毎日心を込めて手作りしており、入居者は家庭的な味を毎日味わうことができる。
「入居者の心と身体を大切に 入居者の尊厳を守ります」という理念を玄関に掲げ、職員は入居者を大切に日々のケアを行っている。

ホーム名:グループホーム白馬

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時(法人名変更前)より、変わらずわかりやすい言葉を掲げている	「入居者の心と身体を大切に 入居者の尊厳を守ります」を理念に掲げ、玄関正面の壁に掲示している。常に寄り添うという気持ちを忘れず、気になることは都度メモを取り、職員同士で共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	数年前より地元自治会より住民参加の会合に参加を求められ、「高齢者食事会」「〇〇地区地域医療福祉協議会」などで、地域の事業所として参加している	コロナ禍で中止にはなっているが、「高齢者食事会」には職員が出席し、認知症について説明することで地域の理解を得ている。また、中学生のトライアルウィークを受け入れ、地域に開かれた事業所になるよう、地域とのつながりを大切にしている。	地域医療福祉協議会で話し合われた内容は、職員にも共有し、地域とのつながりを皆で意識されたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会・地域包括・地域の医療介護事業所による取り組みが日常的にあり、当ホームからは「介護予防」「認知症の治療」など日常の実践を交えた住民向けの講義を毎年行っている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度今年度と新型コロナの感染に伴い、開催が十分できていない本来会議で報告すべき事項については、紙媒体で隔月に報告をしている	1年間中止していたが、運営推進会議には市職員や自治会代表者も参加しており、ホームの状況を把握のうえ、意見をもらっている。議事録も適切に整備されている。	他のグループホームの運営推進会議に参加したり、招いたりしてはどうか。他施設と連携することも有意義であると思われる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の開催案内や実施報告など、市の地域密着サービス担当者を訪問している 会議自体は開催できていないが、報告文書に目を通していただき、疑問点やご意見をよくいただいている	毎月、2名の介護相談員が市から来訪され、入所者1人1人の意見を聞き取って報告いただける。入所者が職員に言いにくいことを把握できるだけでなく、入所者の気分転換にもなっている。運営推進会議でも直接的に関わりを持つことができている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	介護報酬改定や運営推進会議での報告を機に、より身体拘束について理解を深めている 他施設で恒常的にベルト等で拘束を受けていた方が、当ホームではベルトを外し、その結果食欲が増し体重増加に至った入所者もいる 一方ベッドからの転落の既往や心配のある入所者数人には四点柵を行っている コロナ禍でもあり、玄関は日に数回換気のために開放している	身体拘束をしないケアに務め、他施設で拘束が必要だった入居者も状況が改善した事例がある。現在、ベッドの4点柵を使用している入居者がいるが、家族ともよく相談し、ケアプラン変更時にも見直しを行っている。身体拘束検討委員会も主治医や看護師の参加の元、適切に実施されている。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を職員会議などの機会に行っている			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>家族がいない、あるいは疎遠で、これまで日常生活支援事業や成年後見人の支援で生活されていた方の入所が数人あった 家族以外のこうした制度による支援に職員も直接触れることで制度の理解を深めている</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所にあたっては契約書・重要事項説明書を説明し、不安のない形での利用に努めている</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を設置すると共に、各利用者には「担当者」を定め、日常的な連絡の窓口となっている ご意見箱への投書はこれまでなく、直接要望を寄せられることが多かった(この間面会について等)寄せられた意見要望は管理者に集められ対応を検討し、職員に指示している</p>	<p>入所者には「担当者」が日々寄り添っており、意見や気づきは即時にメモを取る習慣が根付いている。コロナ前は家族会を年1回開催し、過半数の家族が参加いただいていた。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員会議の実施前に「提案箱」を置き、全体で話し合うテーマを募っている</p>	<p>職員会議を年に3,4回実施し、その都度、職員からの提案に基づいた議題を話し合っている。日常的に職員間で意見を述べ合える良好な関係作りができており、それが事業所の家庭的な雰囲気づくりに繋がっている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>現場での要望や意見(有給休暇の処理、急な病欠者が出た場合の対応など)は管理者を通して意見をまとめ、必要な措置をとっている</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>機会の確保に努めることとしているが、コロナ禍や人員確保上外部研修への参加はむずかしい現状がある</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>計画作成担当者が対外的な窓口になり、他事業所への訪問や市や包括が呼びかける会議や研修に参加している そういった活動によってもたらされた情報などはスタッフと共有している</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用申込を受けた際は事前に必ず本人と面接をしている 必ずしも本人が同意納得をしていないケースも多いが、本人の現在の生活を聞き取り、新しいホームでの生活には不安がないように聞き取りをしている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族やこれまでの在宅等での生活を支えてきたケアマネや事業所、病院のケースワーカーなどからも要望を聞き取り、本人の入所後「混乱」を起こさないように努めている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の必要とするサービスが「白馬」で提供できるかどうか、状況によっては他のサービス(住宅型有料など)を紹介することがいいのか、本人や関係者からの話を聞いて判断している</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>デイサービスや施設で行っていた「役割」などを事前に聞き取り、「白馬」においても何らかの「役割」を果たしてもらうようにしている</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>帰宅願望が生じることも多いので、家族さんには面会などを促し、入所後も本人の支えになっていただくように努めていたが、コロナ禍で面会制限を行っているので「面会」はできていない ガラス窓越しの面会や電話なども活用しているが、十分ではない</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>コロナ禍まではホーム近辺からの入居者の中には、ご家族以上に近所にお住まいの方などが多数面会にみえていた コロナ禍によりそういった関係が途絶えてしまっている</p>	<p>地域に密着した事業所として、気軽に立ち寄れる環境づくりを心掛けている。コロナ禍において面会の制限はあるが、挨拶や声掛けも徹底している。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>洗濯物たたみや貼り絵塗り絵などのレクレーションなども、ユニットの利用者が一緒に取り組めるように声かけをしている</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>急な入院などで退所された方に対して、入院先のMSWなどから経過を聞き取り、認知症を持った方の退院後の行き先について家族やMSWに助言もしている 手術後など(消化管腫瘍摘出・骨折等)状況に応じては再入所をしていただいているケースもある</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人から聴き取ることは困難なことも多いので、家族などから嗜好や生活歴などを聴き取っている。が、別に住んでいたことで、あるいは認知症の進行で本人の様子がわからない方も多く、入所してから検討することも少なくない</p>	<p>日々のやり取りの中で思いや意向の把握に努めている。事業所から支給されているウエストポーチに職員全員がメモを入れ、気づいたことや得られた情報をすぐに書き留めるように徹底している。担当がカルテに書き写し、毎日全員が確認している。</p>	<p>七夕やクリスマスなどのイベントを活用し、利用者の願いや望みを引き出していきたい。それをケアプランに反映させることにより、ケアプランにも個性がでてくる。</p>
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>これまで在宅生活を支えられてきたケアマネや家族、あるいは入院されていた病院のMSWの話の聞き、スタッフで周知するように努めている</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>本人から聞き取れない場合は、ケアマネや施設職員を通じて把握に努めている</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>各利用者には家族との窓口になる担当者を決めている。介護計画を見直す機会としてケース会議を行い、担当者が管理者・計画作成担当者と話し合っている</p>	<p>かかりつけ医・看護師・理学療法士の意見を取り入れて作成している。ケア会議を半年に1回開催し、介護計画をその都度見直している。</p>	<p>本人や家族から聞き取った想いをケアプランに言語化し、それに基づく目標と期間を設定してはどうか。それにより、自分たちを理解してもらっているという安心感に繋がると思われる。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>「午前」「午後」「夜勤帯」に記録を行い、勤務者は業務に入る前に読み込んだ上で、申し送りを受けている。診察などで医師／看護師から「指示」を受けた際は随時書き込みをしている(服薬、軟膏の塗布、バイタルチェック回数、体位交換、食事の形態の変更など)</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>婦人科などへの通院に際して介護タクシーや付添スタッフ、留守宅の草木の剪定は外部業者、また嚥下困難や治療食が必要な方には、外部業者からの食事取寄などの手配を行った</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ご近所や民生委員などの支えで独居生活をされてホームに入居された方には、引き続き面会などの支援をお願いしていたが、コロナ禍で中断している</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>訪問診療の医師の指示により内科以外の整形外科・皮膚科・脳外科・眼科・耳鼻科などの受診の際には、職員が付き添い、必要に応じて家族に報告をしている。また婦人科・精神科など外部の医療機関での診療を要する場合は家族に医師または職員から説明をして納得の上受診してもらっている</p>	<p>隣接した協力医療機関と密接に連携をとり、週1回主治医の往診があるため、入居者や家族だけでなく職員の安心も得られている。婦人科、口腔外科へは家族同伴のもと通院している。</p>	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>隣接している診療所から看護師が訪問しているが、必要に応じて相談や訪問にも応じてもらっている</p> <p>受診の必要など判断に迷う際にも助言を受けている 特に夜間は宿直の看護師がいるので、常時助言を受けることのできる体制となっている</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>軽い内科疾患の場合は隣接している協力医療機関に入院をし、病状について情報交換をし、早期退院の準備をしている 骨折・脳卒中など長期入院が見込まれる際は一旦退所扱いとしているが、リハビリ後再入所の依頼もあり、入院後も病院ケースワーカーとの情報交換を行っていることも多い</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>食事量や水分摂取が困難となると、今後の希望について聴き取りをしている 多くの場合は点滴や経管による栄養を要するので近くの療養型病院に依頼をしている また自宅で看取りをされた方もおられた 家族の間でも意見が一致しないことも多く、方針が固まるまでに必要な医療的管理を協力医療機関にお願いしている</p>	<p>看取りに関する考え方として、医療的処置が常時必要となった場合は、主治医の説明のもと他施設へ移ることとなっている。</p> <p>看取りを取り入れることも検討の上、敢えて「死を感じさせない住まい」を選択している。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>協力医療機関の看護師などから指導を受けたことはあるが、定期的な学習は行っていない</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>2018年は大型台風があり、断水・停電時となり隣接しているクリニックから電源供給により、夜間照明と冷風扇を使うことができた 風雨が強かったので避難はしていないが、隣接しているクリニックの職員の応援を避難時には受けることになっている</p>	<p>クリニックの存在や、1週間分の備蓄により、安心した対応ができる。</p> <p>年2回の避難訓練も適切に実施できている。</p>	<p>年2回の避難訓練のうち、1回は夜間を想定して行ってはどうか。対応が難しい事態の訓練こそが今後起こりえる災害時の対策になると思われる。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員会議の度に、毎回職員に言葉遣いについては注意をしている</p>	<p>入居者の心と身体と尊厳を大切にするという理念が日々のケアに活かされている。</p> <p>入所者には親しみを込めて接するが、名前を下の名前や愛称で呼ばないように、敬意も示すことを心がけている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日中は離床してもらい、職員が個々の入所者の自分の表情や日頃の行動から本人の思いを汲み取るように努めている</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入浴などあらかじめ決められている予定に対しては、順番を変更するなどの対応をしている 頑なな拒否がみられる際はその後周辺症状が強まることもあるので、本人の拒否に応じることもある</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>自分で服を選んだり、化粧水を使っている方もおられる また男性入居者には自分で髭剃りをしてもらっている</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の前後のテーブルを拭いたり、指や手の動きがいい方には、野菜の皮むきや食器拭きなどをお願いしている</p>	<p>オーナーが育てている野菜を使った手作りの食事を提供している。調理過程でも、食材を大切に匂いなども感じ取れるよう心掛けている。食事の際には、職員も家族のように一緒に食べ、食事に集中できる環境づくりを徹底している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>「残す」ことを嫌がる方が多いので、個々の食べる力に応じて、配膳量や主食・副食の刻み方などを変えている また食事量が十分ではない方には経口栄養剤などを処方してもらい栄養量を補っている</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後自分の居室で歯磨きをしてもらっている 入歯の方は夜間入歯を預かって洗浄している どうしても舌や歯の汚れが取れない方には訪問してもらっている歯科医の処置を受けている</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>尿失禁があっても即紙おむつではなく、布パンツに薄型パットを使っている方もいる また日中は離床のためリハパン、夜間はテープタイプと一人で数種類使い分けしている方もいる</p>	<p>入所者の状態に応じ、リハパンやパットを使ったり、トイレ誘導の仕方を決めたりして、皆で共有し介助している。毎回の便チェックも行き、体調管理に努めている。トイレにはカーテンを付け、ケアの際にもプライバシーが確保されるよう配慮している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>本人拒否が多いが日常的に水分摂取に努められている 便秘については緩下剤の使用などあらかじめ決められた対応を行っている</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一般浴については週3回行っているが、直前の「拒否」も多い ちょっとした気分転換や順番を変更するなどして、入浴に努めている 機械浴も含め月～土毎日の入浴であり、日や時間の変更は柔軟に行っている</p>	<p>週3回、午後からの入浴である。浴槽は段になっており、腰を掛けながらゆったりと湯に浸かる事が出来る。約半数の方が隣接クリニックで機械浴を利用している。</p>	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>離床を一齐に促すのではなく、本人の状態によっては疲れないように臥床し、居室で休んでもらうようにしている</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>調剤薬局からの薬剤情報を個別カルテに綴じている 精神科等他院で投薬を受けている方は、処方箋を発行してもらい、同じ調剤薬局で調剤してもらっている また薬剤の変更の際は、カルテに記入を送りを行っている</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入所時趣味などは聴き取って把握し、本人にとっての「役割」を担ってもらえるようにしている が、若いときの趣味などには関心がなくなっていることも多く、日常生活の中から新たな楽しみごとをみつけるようにしている</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>帰宅願望が強くなり気分転換が必要な際は職員が付き添い30分程度「散歩」することもある 個々の要望に応じた外出はできていない</p>	<p>気候を見ながら、近所を散歩をしたり、駐車場や玄関前で外気浴をしたりしている。紅葉を見にドライブに出かけたり、花見や外出に出かける機会も設けている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の持ち込みは認めていなかったが、自宅からの入所者は持っていないことでの不安を持っているので、小銭程度持っている方もいる 入所者の中には家族了解のもと株取引をしている方もおられる</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の取次ぎには応じていて、不安が強まっているときは予め家族と話し合った上で電話をしている また自宅で携帯を使われていた方は、そのまま持ち込まれている 使い方を覚えている方と忘れられている方がおられる</p>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居心地よく過ごしてもらえるような、明るさ・音楽・室温を意識している</p>	<p>高い吹き抜けから日差しがよく入るため、事業所全体が明るく感じられ、室温も保たれている。毎月季節の絵を描き、ぬり絵や貼り絵をみんなで作り、飾っている。入所者が家庭的な「自分の居場所」を認識できるような雰囲気づくりを行っている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホーム内に「ひとり」になれる場所は少なく、転倒のリスクのある方も多いため、動かれているときは目を離さないように努めている</p>		
54	20 <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使っていたものなどの持込は認めているものもあるが、地震時転倒する恐れのあるものは断っている 仏壇、写真や額など自由に持ち込まれている</p>	<p>居室の大きな窓からは、山や空が見え、季節や天気を感じる事ができる。利用者や家族の希望に合わせて、自宅で使用していた馴染みの物等を持ち込んでもらい、家庭的な第2の住まいとして意識いただけるように支援している。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや自分の居室がわからない方もおられる 部屋の前に張り紙や目印をつけている</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が 増えている (参考項目:4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足している と思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足している と思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない